

第3回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定 森林・林業部会 議事録

日時：平成26年9月12日（金）14：30～16：00

場所：日田市役所7階 中会議室

次第

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議題
 - (1) 骨子案について
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

事務局資料説明省略

部会長

まず、骨子案の構成、体系などについてご意見をいただきたい。

部会員

計画期間は10年と記載してあるが、今回のような会合はビジョン策定後も継続する予定なのか？あるいは、今回きりで終了なのか。前回の構想は、その後そのままだった。実践が出ていないし、検証もなかった。部会や事務局のメンバーが入れ替わっても、ビジョンを推進できるように、会議の場を設けなければ林業は育たない。実践・検証がなければ何もしない方がよい。

事務局

前回の林業構想についてはご指摘の通りである。今回の計画については、5年後ごとには見直しをする予定だ。その中で、組織名や期間は定まっていないが、何らか検証する場は設けたいと考えている。民間の委員を想定している。

部会員

今回のビジョンの内容やビジョンに基づいた実践内容を十分に市民に知らせることが重要だ。関係者だけのものにしてはいけない。例えば、セミナーなどを開催する場合には、ビジョンに基づく施策ということをきちんと告知していくことも必要だろう。

事務局

市民への広報だが、まず、骨子案が固まった段階で、ビジョンに関する市民アンケートを実施し、意見集約する予定だ。ビジョン策定後については、体系図の「Ⅲ森林を知る」の「森林環境教育による市民意識の醸成」「市民参加による森林保全活動の推進」の中で、市民に対して情報発信していきたい。

部会員

「クラスター化」が基本理念なので、産業振興が中心の柱となるはずだが、目指すべき方向性のⅠ～Ⅲは、他の森林づくりビジョンなどで見られる一般的な区分のように感じる。従って、産業振興や出口戦略が全面に出ているような感じがしない。「クラスター化」で木材・情報の域内循環・高付加価値化が中核施策のような図になっているが、体系図の中ではそれが明確に見えないと思う。

事務局

ご指摘の通り、目指すべき方向性のⅠ～Ⅲは一般的な区分だと思う。出口戦略重視であっても、市のビジョンということで森林・林業・木材産業全般を網羅した項目立てが必要だと考え、Ⅰ～Ⅲを設定した。ただし、出口戦略である「Ⅱ森を活かす」の部分は項目に厚みを持たせている。

事務局

産業振興ビジョンという位置づけであれば出口戦略重視のみで良いが、森林や木材産業といった市民が共通して持っている財産があり、市民の共通理解の中で地域が成り立っていると考えると、「森林を守り育てる」と「森林を活かす」を分けて書かざるを得なかった。「森林を活かす」の部分で、出口戦略を重視した案があればインパクトを持たせる意味でも、ぜひ皆様からご意見をいただきたい。

部会員

担い手育成・確保は「Ⅲ森林を知る」に入るのか？

事務局

少々無理矢理な感じもするが、Ⅰ～Ⅱに共通する課題としてⅢに位置づけた。

部会長

骨子案の構成、体系について他に意見が無いようなら、次に重点施策に移りたい。10ページ以降について、皆様からご意見をいただきたい。

部会員

施策体系に「災害に強い森林づくり」が記載されているが、大分県は保安林指定が少ない。一方、福岡県では危険箇所や砂防ダムの設置箇所など、県レベルで所有者に告知している。所有者側から保安林指定の手続きをしようとする、非常に時間がかかる。行政側が危険箇所を見極め、保安林指定の推進など、災害対策に前向きに動いて欲しい。シカ、イノシシの被害は非常に差し迫った課題だ。猟友会のメンバーの高齢化も課題なので、行政がもっと積極的に動くべきだ。ネットも良いかもしれないが、根本解決が必要で、そのような方向性も盛り込んで欲しい。

部会員

地域の過疎化にいかにか歯止めをかけるかが、一番大事だ。担い手を育てるにしても、人が生活する基盤がないと、都会に人材が流出してしまう。核家族化しているので、田舎での生活の場がくずれている。経済中心主義ではなく、人間がどのように生きていくかという問題だ。ビジョンを作ったは良いが、机上の空論で誰も生活ができないということになる。

材価安の中では立木価値はゼロに等しくなっている。伐期がきているので、アジアへの輸出など、大きな構想の中で考えていかないと、需要は拡大しない。

部会長

根本的な問題については、日田市の総合計画の中で方向性が定められているのではないかと。今回は、その総合計画の中で、林業・木材産業をどのように位置づけていくかという、もう一段レベルを下げたものだと思う。

部会員

木材は1964年から関税がゼロになり、外材に負け、現在の状況になっている。「Ⅲ森林を知る」の中で、国産材の良さを市民、消費者に知ってもらうことが重要だ。PRの方法など盛り込んで欲しい。

事務局

ご意見の通りで、市民意識の醸成が重要だと考える。「Ⅲ森林を知る」のところをさらに厚みを増して記述したい。また、木材だけでなく日田の良さを知ってもらうことが重要だと思う。木材産業、日田の観光を合わせたツーリズムを形づくりたい。個別の動きがありながら、面としての動きが見えないというのが日田の課題の1つなので、その解決策についてもビジョンの中に盛り込んでいければと思う。

部会員

木材の安定供給は、素材生産者がいるからこそ達成できることだ。長野県では36年前に、現場の人材育成を目的に林業大学校をつくっている。出口ではなく、最も入口の部分での人材育成を行っている。大分県は、出口戦略に一生懸命だが、このような入口の対策については抜けていると思う。素材生産者は急には増えない。山は荒れる一方である。市、県、国に支援してもらいながら、入口の部分の人材育成が重要。日田市への新規参入者の意見も取り入れてはどうか。日田市は県境である。隣の県・市町に負けないようなビジョンづくりをして欲しい。

事務局

長野・岐阜の視察を反映して、日田市だけでなく、県、九州あるいは西日本といった広い範囲も想定しながら、日田の歴史・地の利を活かし、21ページに「林業咸宜園」を提案した。林業をテーマにアカデミックに林業を学べるプログラム、施設整備などができないかと考えている。

部会員

四国の山で作業をしている人が、人を募集しカリキュラムを組んで、チェーンソーの使い方や山の作業を教えている。将来的には林業の学校を作りたいと言っていった。そのような人と連携し、プログラムを拡張しながら進めていけば良いのではないか。学校をつくる筋道もできる。

部会員

今年の3年生は地元志向が強いが、地元で職がないという生徒もいるようだ。面接の練習で、今一番気になることを聞くと「広島の水害」と答える。山が荒れているのが原因とわかっているにもかかわらず、自ら林業に携わりたいとは思っておらず、製材所への就職を希望する。それは、彼らの両親が林業は「きつい」ということをすり込んでいるからだ。森林組合から求人もあるが、どうしても「きつい」というイメージがついている。大分にも農業大学があるが、林業課はない。その場合、果樹など木に近いところに行くしかない。林業大学校のようなものができれば、行きたいという林工の生徒も出てくるかもしれない。林業が面白いという生徒は何人かいるが、それをどのように職に活かして良いかわからない生徒がいる。「経営」という概念が育っていないからかもしれない。林工には演習林があり、整備にはいくが、山をどのように経営するかということは教えていないので、そこまで教えると興味を持つ生徒が出てくるかもしれない。

部会員

竹林の繁茂も課題になっている。竹の繊維と木の繊維を合わせて合板を作るような研究をしてはどうか。竹の繊維の強さを活かす方向はある。戦後、生活様式が変わってきた。薪炭林が生活にとって必要なものだったが、スギ、ヒノキに変わった。それが獣害の要因になっている。水源涵養のためには、広葉樹も必要だと考える。

部会員

竹を使った紙を作り県で発表したが、コストが高いということで実用化には到らなかった。

部会員

水土保持林、経済林などゾーニングがなされているが、本来50～60年サイクルで伐採しなければ、台風などの災害に対して根がもたず、災害が発生する。そのような基準を日田市独自で設定してはどうか。伐採促進に対して補助金があっても良い。災害復旧にかかるお金よりも安く済むと思う。大きい木の方が災害に遭いやすく、小さい木は揺れるが害は少ない。

部会員

「I森を守り育てる」について、伐採は機械化が進みできていると思うが、育林は全く機械化ができていない。下刈機とチェーンソーで地道に作業をするしかない。しかも、育林の人材は高齢化が深刻になっている。育林人材を育てなければ、森を育てることにならない。伐採しても森を育てる人がいない。伐採に関しては、認定事業体の制度があるので、育林に関しても何らかの制度を作る必要がある。日田郡森林組合では、除伐も多く年間200ha程度実施している。除伐は育林班が担当しており、伐採班ではない。育林班は、植栽、下刈り、除伐もする。主伐の量が増えると、育林作業が安定的に発生するが、どうしても仕事量の季節変動が大きい。しかも、平均年齢は60代後半になっている。若い人が全く入ってこない。機械化の進んだ伐採には入ってくる。ゲーム感覚で機械を扱えるので人気もある。

部会員

伐採班で育林もできるように育ててはどうか。

部会員

箇所によっては下刈りもするが、認定事業体には生産性が求められるので、機械に集中させる必要がある。

部会員

育林の機械化は容易ではないので、育林の補助金率を高めるしか方法はないのではないかと。多様化の一つとして、早生の植栽も考えていく必要がある。スギで成長が早いもの考える人もいるが、災害の要因になるので、早生系の樹種を導入し、3年くらいで下刈りを上げていく必要もあるだろう。日田林工と試験場を活用した教育機関をつくるのであれば、その目標とロードマップを記載する必要があるだろう。災害の危険箇所を保安林に指定するならその数値目標もつくるべき。いずれにしても、それぞれの施策について数値目標があった方が良い。今、林業に非常に危機が迫っている。そのため、「森林」の問題については後回しにしてもよいのではないかと。ビジョンについても「林業・木材産業振興」としても良い。森林は「振興」するものではないので、流れが少しおかしくなっている。出口戦略と、材の供給、それに伴う道の問題、さらにシカ害への対応が急務だ。シカの捕獲目標値なども盛り込んでどうか。災害に強い森づくりについては、大地の浸食は自然の摂理なので止めることはできない。自然林の方がやや強くなるかもしれないが、強度間伐で針広混交林が拡大するかどうかも定かではない。主伐をして、災害に強い樹種を植えたとしてもそれが育つまでには時間がかかる。お金にならない山は自然林化、災害の危険がある山は保安林指定するなど、人間活動をやめる場所をつくることも考えるべき。保安林については、福岡県の話が出ていたが、そのような姿勢でもっと保安林化すべき。数値目標が大切。

部会員

県としては、林業専用道の推進など道の整備には力を入れ、集約化の核としている。重点施策にも集約化が記載されているので、道の整備の項目を入れて欲しい。集約化によって生産性を上げていく方向性も記載して欲しい。竹の活用については重視していく方向が出ている。項目としては小さいが、もし日田市でも竹が課題になっているのであれば、体系の中に入れても良いのではないか。

部会長

13 ページの集約化、解決の方向性が保留となっているので、いま提案のあったようなことを盛り込んでどうか。

部会員

竹はかつて災害防止のために植えられた経緯もある。生活の中で活用できる部分はきちんと活用して行くことも重要だろう。

部会員

真竹が九州で川沿いに点在しているのは、かつて真竹が植えられたからだ。孟宗竹が日本に入ったのは 1735 年あたり、薩摩の磯庭園に植えられたのがきっかけで、食料、材料として重宝され、一気に広がったと言われている。バイオマス、竹の焼酎など使い道はもっとある。竹の砂防効果については定かではなくなっている。

部会員

経済的な観点だけで、山を整備するのではなく、地球環境を維持するためにどうするかという、人間本位ではない考え方も重要だ。

部会員

林業・林産を重視しながら、採算の合わないところをまずは天然林に戻していくということが必要だろう。

部会員

植林の際、スギ、ヒノキを植林するなど、一定程度広葉樹を植えるようにしている。

部会長

過去の反省はあるにしても、今、ある資源をどのように活かしていくかという視点が重要だろう。

部会員

少子化に入り、企業が雇用確保で求人活動が活発になっている。生徒は安定を望むので、企業からの求人が多くなれば、企業に行くと思う。林業の担い手を考えるのであれば、人材確保の点も重要だろう。他の学科にも興味ある生徒はいるが、どうしても安定した企業に行く。農業・林業はさらに危機感があるだろう。

事務局

景気の回復に伴い、建設業など人材不足が顕著になっている。就職に関するマッチング支援などもビジョンの中に盛り込みたいと思う。また、竹の話しについては、施策体系に特用林産物の振興を入れているので検討したい。

部会長

小中学校の机・椅子は全て木質になっているのか？子供には日田杉の机で勉強してもらいたい。また、木材消費の観点から、消費サイクルを作っていく必要がある。小学校入学時に自分の机を渡し、それを中学校まで使うようにするのはどうか。入学人数分、毎年需要を作ることができる。日田には木工関連の人もいるので、せっかくなら成長に応じて高さを変えられる机・椅子の開発をしてはどうか。自分のものとして大切にす気持ちを育てると同時に、消費サイクルをつくることを考えてはどうか。環境税の活用なども良いかもしれない。

部会員

日田林工の教室は日田材で木質化しているが、外部からの評判もかなり良い。また、インフルエンザにかかりにくいなど、健康にも効果がある。外部へのPRにもなっている。

部会長

今後の流れについて、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

本部会と木材産業部会の意見を集約し、骨子案を修正したのち、10月2日の第2回策定委員会に提出予定である。修正内容は部会の皆様にも配布予定だ。策定委員会での意見を反映し、素案を策定したのち、再度部会を開催したいと考えている。

部会長

以上を持って、部会を終了します。ありがとうございました。